

AIガバナンス コンサルティングサービス

AI利活用におけるリスクを受容可能な水準に管理し、企業の全体的なAIガバナンスの仕組み構築を支援

2019年、内閣府から「人間中心のAI社会原則」が公表され、AI利活用に関する正しい社会のあり方が定義されました。企業がAIの利活用を推進するにあたって、この原則と矛盾しないことが求められており、方法論としてAIガバナンスの重要性が叫ばれています。一方、AI導入の初期段階の企業にとって、AIガバナンスは不十分であることが多く、潜在的なリスクへの対処やAI利活用における業務の効率化が課題となっています。

アビームコンサルティングは、公的機関の発行する抽象的なガイドラインを独自のAIガバナンス方法論に落とし込み、AI利活用におけるリスクの適切な管理、および組織、人材、システム、業務における効率的な運用体制の仕組み構築を支援します。

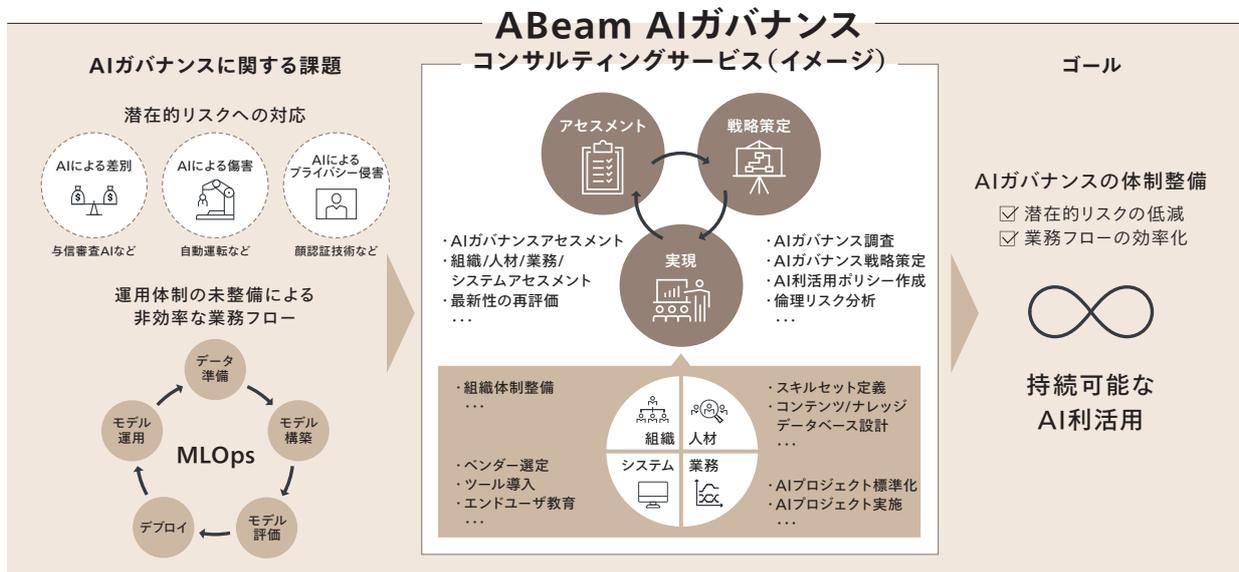
企業・組織においてAIガバナンスが進まない真因

AI利活用を持続可能（変動性、不確実性、複雑性に対応できる状態）なものにするため、AIによる差別*やプライバシーの侵害といった潜在的なリスクの適切な管理、および、活用の過程で増大するデータやモデルの効率的な運用体制を整備する必要があります。しかしながら、企業・組織は「組織体制が整備されていない」、「AI開発・運用プロセスが明確ではない」、「AIの予測結果が説明できない」など、それぞれの立場によって異なる課題を抱えています。これらの課題を解決するには、立場ごとの視点に寄り添った上で、リスク管理、効率化の観点で課題を整理し、組織体制や社内規則を整備することが重要です。（*）性別や人種など、センシティブな要素に基いてAIが差別的な判断をしてしまうこと

 <p>組織体制が整備されていない どのような組織体制でAIガバナンスを担保すればよいかわからない</p>	 <p>AI開発運用プロセスが明確ではない 法律や倫理上の課題にも対応できるようなAIモデル開発運用プロセスがない</p>	 <p>AIの予測結果が説明できない AIモデルの挙動や判断の根拠に関して、説明・解釈できない</p>
---	---	---

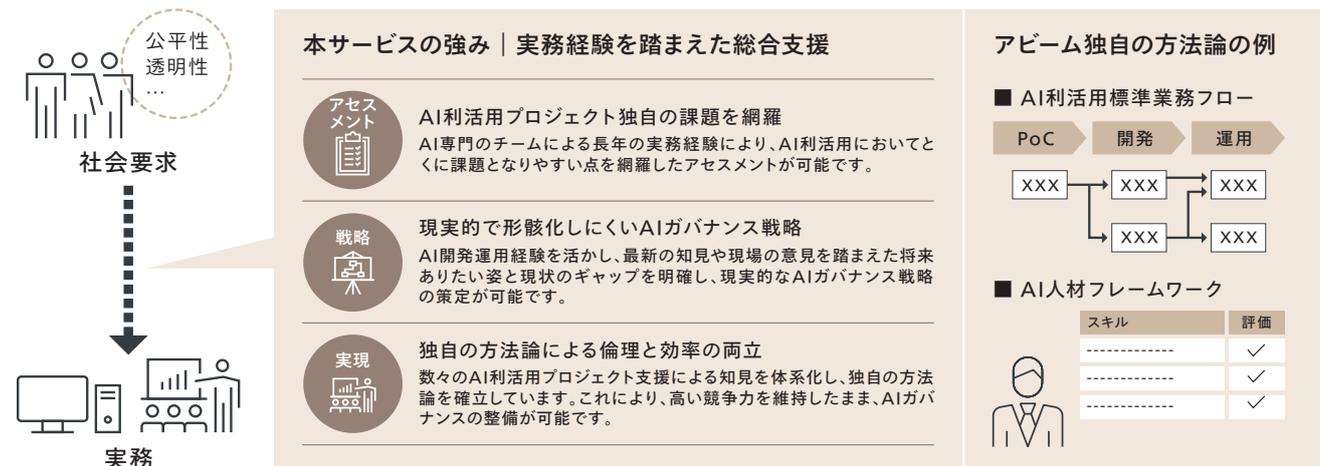
ABeam AIガバナンスコンサルティングサービスの概要

アビームコンサルティングは幅広い業界に対して豊富な業務知見をもとに、ABeam AIガバナンスの方法論を用いて、企業・組織のAIガバナンスの仕組みの構築を総合的に支援します。具体的には、AIガバナンスの現状と道筋を可視化した上で、リスク分析とガバナンスのゴール設定を実施し、組織・人材・業務・システムの4つの観点で実効性のあるガバナンスの仕組み構築を支援します。また、技術的・倫理的な最新性の再評価、ガバナンス戦略の見直し、最新技術の導入など、3つのフェーズを継続的に繰り返すことで、ガバナンスの仕組み構築後の持続可能なAI利活用を実現します。



ABeam AIガバナンスコンサルティングサービスの強み

アビームコンサルティングは、業界・サービスライン、国・地域に関する多様な知見と実務経験を活かし、AIガバナンスの実現を総合的に支援します。AI利活用に伴う標準的な業務を整理した「ABeam AI利活用標準業務フロー」、AI利活用に必要なデータサイエンティスト人材の管理と育成を目的とした「ABeam AI人材フレームワーク」など、アビーム独自の метод論をもとに、現実的かつ効率的なサービスデリバリーを実現します。



ABeam AIガバナンスコンサルティングサービスの活用事例

① アセスメントフェーズ | AI利活用リスク分析

AIを活用した事業を持続可能なものとするためには、AIを活用することのリスクを正確に把握し対応策を検討しておく必要があります。「AI利活用リスク分析」ではAIを活用する業務を特定し、リスクの洗い出しと対応策を検討します。



■ AI利活用業務特定

- ・ 現在AIを活用している業務の特定
- ・ 今後AIを使う可能性のある業務の特定



■ リスク分析

- ・ ステークホルダーの定義
- ・ 社会に対する負の影響の洗い出し
- ・ 負の影響の重大性と発生可能性の評価



■ 対策検討

- ・ 特にハイリスクと評価されるリスクに対して適切な対策の検討・提案

② 戦略策定フェーズ | AIガバナンス戦略策定

今後AI開発が社内に進む状況においては、国内外のAI規制やAI倫理、自社の企業理念を踏まえたAI開発ポリシーに従う必要があります。「AIガバナンス戦略策定」では、各社の状況に合わせたAIガバナンスの整備やAI活用ポリシーの策定を支援します。



■ 動向調査

- ・ 国内のガイドラインについての解説
- ・ 海外のAI規制やAI倫理に関するトレンドを整理
- ・ 先進的な企業での取組の紹介



■ AIガバナンス整備ロードマップ作成

- ・ 自社のAI利活用状況の整理
- ・ 長期的なロードマップの策定



■ AI利活用ポリシーの策定

- ・ 先進的な企業のAI利活用ポリシーの紹介
- ・ 自社の企業理念を反映したポリシーの文書化
- ・ 関係者への説明

③ 実現フェーズ | AI利活用業務の標準化

AI利活用に関する企業理念 (AI利活用ポリシー) を実務レベルに落とし込むためには、AI利活用業務を標準化することが重要です。「ABeam AI利活用標準業務フロー」では、AI利活用に関する一般的な社会要求に応えるために、いつ誰が何を実施すべきかを業務フローの形で整理しています。自社の企業理念や様々な事情をもとにこれを改変することで、自社独自のAI利活用業務の標準化の迅速な支援が可能です。

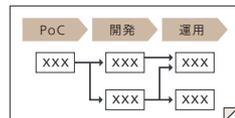
① ヒアリング



- 現状のガバナンス体制や今後の体制構築についてのヒアリング
- 現状のAI利活用業務についてのヒアリング

② 業務の標準化

標準業務フロー

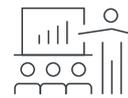


社内規定

1. PoCフェーズ
2. 開発フェーズ
3. 運用フェーズ

- 「ABeam AI利活用標準業務フロー」を自社のビジネスモデルや業務に適用した形で独自に改変
- 社内規定等、自社のフォーマットに合わせて文書化

③ 関係者への説明



- 関連する部署への内容の説明
- 意見をもとに社内規定の修正



実現フェーズでは、組織・人材・システム・業務の4つの観点からAIガバナンスの実現を支援しています。上記のAI利活用業務の標準化の他にも、以下のような内容の支援を実施可能です。

- ・ 組織: AIガバナンスの実現には現場と経営層の協力体制を構築する
- ・ 人材: AIの誤用や悪用を防止するためのAI技術やAI倫理に関する人材育成
- ・ システム: AI利活用業務の効率化や悪用防止のためのツール選定・導入・運用